



松尾夕姫（まつお・ゆき/1990-）は大阪生まれ、2014年に嵯峨美術大学を卒業し、京都、大阪で個展を開催、三回目が東京のステップスギャラリーとなった。松尾は2015年のうのゼミ展に参加し、撓んだ/広げた2作品を発表した。この時の松尾の作品の素材は布であったが、今回はミラーシート、オーガンジー、アクリルという特異な素材を用いた。会場に貼ってある略歴に「空間と共鳴するような作品を作りたいと思っています」と制作意図が記されていた。写真大は作品の部分である。透ける布オーガンジーの特徴

が分かっていただけだと思う。松尾は「描く」だけではなくポーリングというよりも「染み込ませる」ことによって、自己の意思を超えようとしているのではないかと感じる。その意図は良く分かるのではあるが、やはり描く時にはもう少し考えて、丁寧が基本で、丁寧を崩した感触を出すようにした方がいいのではないかと感じる。線が、余りにも恣意的なのだ。空間とはもっと規則的であり、人間より、人間が造り出した機械よりも精密である。松尾には鋭い感性があるからこそ、更なる課題と挑戦を繰り返して欲しい。

